

平成29年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立高山工業高等学校

学校番号

59

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた個性豊かで明朗快活な人間性を育成する。 (2) 基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力や問題解決能力を育成する。 (3) 勤労を尊び、たくましく生きる力を身に付け、工業を学ぶことに誇りと自信を持たせる。 (4) 学習指導および部活動指導等を充実し、文武両道に活躍できる生徒を育成する。
2 現状の分析	○素直で人懐っこい生徒が多い。挨拶、礼儀、規律、身だしなみは概ね良好である。 ○各学科とも資格取得やものづくりに積極的に取り組むとともに、習得した知識・技能を生かして積極的に地域社会に貢献している。 ▲義務教育段階の基本的・基礎的な知識・技術や、学習習慣が身につけていない生徒が多く、学力は低い傾向にある。 ▲指示されたことはできるが、状況に応じて対応する力に欠ける。また、発達障がいのある生徒や疑いのある生徒が増加している。
3 学校の抱える課題	・基礎学力の定着やコミュニケーション能力育成のため、授業改善はもとより様々な角度からのアプローチが必要である。 ・学習指導や生徒指導について、生徒一人一人に対応するきめ細かな配慮や指導が必要である。 ・本校の特色ある取組について、保護者、地域、小・中学生及びその保護者に対して周知を図る必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	・確かな学力の育成 ・礼儀・マナーの向上と個に応じた指導 ・生徒一人一人の将来設計指導と進路希望の実現 ・開かれた学校づくり

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	① 基礎的・基本的な学力の定着 (授業改善、生活記録の活用、自 学ノートの実施など)	① 授業アンケート調査、定期 考査得点状況、課題等の取 組状況など	① 高工ユニバーサルデザインに基づい た授業の実践、補習・補充の実施、 自学ノートの効果的活用方法など	B	○授業改善への取組 ○個に応じた指導の充実 ○生徒の主体的な取組の増加 ▲家庭学習習慣の確立	A
	② コミュニケーション能力と問題 解決能力の育成 (授業での言語活動の充実など)	② 研究指定3推進事業への評 価、商品開発状況、販売の 状況など	② 言語活動を取り入れた授業の実践 研究指定3推進事業の商品の拡充・ 教育課程への位置付けなど	A		
生徒指導	① 挨拶の励行、身だしなみ・マナ ー等規範意識の向上 (生徒会挨拶運動など)	① 身だしなみ指導の状況、迷 惑調査の結果など	① 生徒会と連携した校門挨拶運動の充 実、ネット・スマホに関する指導と 講習会、安全運転講習会の実施など	B	○事故や問題行動等の発生件 数の激減 ○個に応じた生徒指導の充実 ▲合理的配慮が必要な生徒へ の対応 ▲自己指導能力育成への取組	B C D
	② 生徒一人一人へのきめ細かい指 導 (職員研修、ケース会議など)	② 生徒の出欠や異動の状況、 ケース会議の実施状況、外 部専門家の要請の回数など	② ケース会議の実施、外部の専門家 の活用、個別の教育支援計画作成、職 員間の情報共有など	B		
進路指導	① 専門的技術の向上 (資格取得の推進など)	① 資格の取得状況、ものづく りコンテスト等の成績など	① 高度資格の取得推進、ものづくりコ ンテストにおける外部講師活用など	B	○生徒・保護者への意識啓発 ○離職率調査の実施 ▲コミュニケーション力育成 ▲進路設計の不十分な生徒へ の対応	
	② キャリアプランニング能力の向 上 (進路先研究の徹底など)	② 企業見学の実施状況、卒業 生と語る会の実施状況など	② 進路ガイダンス、企業見学、インタ ーシップ、PTフォーラム、校務 員セミナー等の実施など	B		
学校経営	① 社会貢献活動の推進 (工業技術を生かした地域への貢 献など)	① 活動実績、志望者の数など	① 小学生ものづくり教室、高山祭屋台 及び門提灯のLED化、子ども大学 たかやまでの講師協力など	A	○各種社会貢献活動の推進 ○積極的な広報活動の推進と 内容や在り方の検討 ▲必ずしも志願者の増加につ ながっていない	
	② 広報の充実 (学校紹介ビデオの更新、中学校 や地域社会への広報活動の充実 など)	② 教育週間の来校数、学校紹 介ビデオの完成状況、HP へのアクセス数、自治会へ の情報提供回数など	② 学校紹介DVDの制作、高工インフ ォメーション冊子の中学校配付、中 学校での作品展示、中学生一日入学 の休日実施など	B		

II 学校関係者評価 実施年月日：平成30年1月27日		12 来年度に向けての改善方策案
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に学校教育目標に沿って具体的かつ明確な重点目標を掲げ、各分掌とも適切な取組がなされている。今後も改善を重ね、充実させてほしい。 ・地域連携による活力ある高校づくりを推進しており、地元の各機関と連携し、地域の課題をものづくりで解決する新たな提案も進めており、頼もしい限りである。今後も継続してほしい。 ・少人数や習熟度別授業が理解につながったと回答する生徒が9割を越え、進路模試等から基礎学力の定着、伸長もうかがえる。今後も授業改善に努め、さらなる向上に向け、高工ユニバーサルデザインを意識した実践を推進してほしい。 ・DVDの制作はじめ各種広報活動を推進しているものの、必ずしも志願者増にはつながっていない。広報計画を再検討し、一層関係機関との連携を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高工ユニバーサルデザインやアクティブラーニングを意識した授業改善を一層推進する。 ・生徒の能力に応じた指導の推進と、学習習慣の定着に向けた指導方法を再検討する。 ・自己指導能力の育成するため、生徒が自ら考え、行動する場や機会の増加に努める。 ・進路講話、進路ガイダンス、企業見学等の積極的实施により、キャリア教育の一層の充実を図るとともに、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・指定最終年度を迎える「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」の指定事業の成果と課題を検証する。 ・志願者増に向けた戦略的な広報計画を作成し、各種関係機関との連携を深め、時宜を得た広報活動に努める。 ・発達障がいのある生徒への個別の教育支援計画を含む支援体制の充実を図る。